

令和5年度 府中市立浅間中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	①考え方に偏りが見られる。 ②発表に苦手意識がある生徒が一定数いる。 ③漢字テストの結果から漢字の定着の個人差が大きい。	①授業内で意見交換や考えの再構築の時間を設ける。 ②適宜、発表の機会を設けるとともに、小集団から全体へと段階を経て克服できる手立てをとっていく。 ③定期的に漢字テストを行うとともに、新出漢字等にも触れ、漢字の定着を促す活動を行う。		
数学	①小学校段階での学習事項の定着の個人差が大きい。 ②知識を習得できている一方で、その成り立ちの理解が不十分になりやすい。 ③文章の読解力に課題があり、知識を活用して課題を解決することに苦手意識をもってしまう。	①計算練習の機会を設け、それを通して復習・確認をする。 ②生徒が物事に対する理由を考え、それを自分の言葉で表現する場面を必ず設定する。 ③図や表を用いて、問題が表していることを整理し、生徒が思考するためのきっかけを与えていく。		
理科	①個別の知識・技能の習得はある程度できているが、単元のつながりで考えることは不十分である。 ②事象・現象を科学的に探究するための協働的な活動の場数が少ない。	①単元での振り返りで、知識のつながりを考える場面を増やしていく。 具体的な事象から、既習事項がどう活用されるのかを話し合いを通じ、考え、説明する機会を増やしていく。		
社会	単元のつながり、単元を貫く問いに対する意識が不十分である。	単元の振り返りシートやルーブリックの活用の仕方・提示のタイミングを検討し、さらに効果的に活用できるようにする。		
音楽	①自分の演奏上の課題を発見する力 ②仲間と交流しながら、互いに高めあう力 ③根気強く反復練習をする集中力 ④全力で音楽を表現する力	①客観的に自分の演奏を聴く機会を設ける。模範演奏を聴かせ、コツがつかめるようにする。 ②互いのアドバイスを、記録し蓄積する活動を続ける。 ③練習の目的を伝える。成長を実感させる時間を設け、声掛けを行う。 ④正しい発声や心構えを伝え、できた時に評価する。		
美術	①作品制作に苦手意識をもっている生徒がいる。 ②計画的に作業を進めることが苦手な生徒がいる。 ③基礎知識を発展させ作品制作に結びつけることが苦手な生徒がいる。	①導入の段階で身近な物事を取り上げ、興味・関心をもてるようにする。自分で完成作品のイメージをもつことができるようにする。 ②授業ごとに進捗状況を把握させて完成までの時数を常に意識させる。 ③失敗を恐れず、失敗の中から学ぶことの意義を評価する。		
技術	①ねらいとまとめのつながりを意識させることが、1時間単位で行えるようにする。 ②知識と技能が連動できていない生徒がいる。	①ねらいはプリントに記入し、まとめは振り返りシートを活用し、1時間の振り返りを行う。 ②教科書を見返す場面や、工具の使い方が必要になった場面で、プロジェクターを活用し知識と技能が連動できるようにする。		
家庭	①自分の生活の中で改善が必要な課題を見つけること。 ②家庭科の授業で学んだことを自分の生活でどのようにいかすかを考えること。 ③各単元のつながりを意識し、教科全体としての見通しをもつこと。	①授業中に具体例を取り上げる際、生徒にとって身近な題材を取り上げる。 ②知識習得の活動の時間とその知識をどう活用していくかを考える思考活動の時間を設ける。 ③単元の導入では、他の単元とのつながりを意識できるようにし、横断的な学習展開を実施する。		
保健体育	①得意な種目に偏りがある生徒が多い。 ②自分の考えや課題を文章で表現したり、相手に伝えたりすることが苦手な生徒がいる。	①幅広い種目に取り組み、その種目の楽しさを味わうことができるようにする。 ②各単元で振り返りシートを記入し、自分の考えを文章で表現する取り組みを継続して取り組んでいく。		
外国語	①より具体的な内容に関することが聞き取れる、話せることが課題。 ②フォニックスを活用して読んだり、書いたりしていくことで、英語学習に対する自信をもつことが課題。 ③書くことに対する苦手意識をもつ生徒が多い。	①英語を話す機会を多く作る。クラスで共有したり振り返りをしたりし、どうしたらよりよくなるかを考える。 ②音読を大切に、発音したものを書くといった練習を行うようにする。英語で言えることが英語を書くことにつながる経験を積むことになるようにする。 ③自信をもって書くことができるように、段階的に指導し、ワークシートの工夫をする。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立浅間中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	教科の特質としてどうしても考え方が個人偏重になりやすく、全体の場での意見発表に消極的になってしまう。	意見を発表しやすい雰囲気を作るために少人数の中で発表しあい、それを共有し、他の意見を自分の考えと照らし合わせ、新たな考えを生み出していくという協働的探究学習を試みる。		
数学	・基礎学力の定着の差が大きい。 ・文章題や応用問題、問われ方の表現が変わると、解けなくなってしまったり、諦めてしまったりする傾向がみられる。	・基礎学力を定着させるために、引き続き帯活動として計算問題を解く時間を設けていく。 ・考え方や解き方を、生徒が説明する場面を設けていく。 ・知識・技能を活用する場面では、ペアやグループで学習する場面を設け、最後まで諦めずに問題に取り組む姿勢を育てていく。		
理科	①個別の知識・技能の習得はある程度できているが、単元のつながりで考えることは不十分である。 ②科学的な事象・現象の理由や仕組みを考える協働的な活動の場が少ない。	①単元での振り返りで、知識のつながりを考える場面を増やしていく。 具体的な事象から、既習事項がどう活用されるのかを話し合いを通じ、考え、説明する機会を増やしていく。		
社会	一斉指導の知識習得の場面で生徒が受け身になってしまふ。 単元のまとまりを意識して、習得した知識を活用して単元の問いに対して自分の言葉で表現することが難しい。	学習内容によって適切な学習活動や表現方法を選び、生徒が主体的に学習に取り組める場面を増やす。 単元の問いに答える場面までに学習内容の定着を図る問いを適宜作り、クラス全体で確認を行う。		
音楽	①基本的な歌唱の技能（特に男子生徒） ②正しい音程と自分の歌声の音程の差を聞き分けて、改善する力 ③楽譜に書かれている内容の意味や理由を考え、表現の工夫につなげる力	①練習の時に体の使い方や発声を具体的に指導する。 ②一人ずつ歌う時間を作り、違いに気づくことができるようにする。 ③楽譜を使う題材の中で、理由を考え、表現につなげる指導を必ず行い継続していく。		
美術	①授業には積極的に取り組むことができている。小テストを繰り返して基本的な知識の定着を図っているが、点数分布の差が大きい。 ②学んだ知識や技能を身に付けて表現に生かす能力には課題があり、形の把握や色彩を判断する能力は差が大きい。	①テスト対策の時間などに間違いやすい部分を再度確認するとともに、実技指導を通して既習事項の振り返りを行い、徹底的な定着を目指す。 ②形や色彩を観察して表現する課題を定期的に設けて基礎的な技能を高め、水彩の表現を習慣化できるようにする。		
技術	①生物育成、エネルギー変換の技術に取り組むので生活や社会に関わることが具体的にイメージしにくい部分がある。 ②生物育成における技能など、個人差が大きなものがある。	①動画やタブレットでの検索といった視覚的な情報を活用し、生活や社会のどの部分に関わっているか考えることができる場面を作る。 ②手順を明確にし、どのように取り組むか整理できるようにする。		
家庭	①被服分野の製作実習において、技能の個人差が大きい。 ②家庭科の授業で学んだことを自分の生活でどのようにいかすかを考えること。 ③他の単元とのつながりを意識し、教科全体としての見直しをもたつこと。	①丁寧に実技指導を行う。ICTを活用して、基本縫いの手本などを映像で流してわかりやすくすることや机間指導の回数を増やし、個人の進度に差がでないように指導をする。 ②知識習得の活動の時間とその知識をどのように活用していくかを考える思考活動の時間を設ける。 ③単元の導入では、他の単元とのつながりを意識できるようにし、横断的な学習展開を実施する。		
保健体育	①単元ごとの、各自の課題設定と解決に向けた方法を考え実践することが難しい生徒が多い。 ②男女共修で取り組む中での、メリットを活用した授業展開の方法の工夫。	①課題の設定例を示すことで、自らできそうなことを選択できるようにする。 ②球技や、器械運動などでは、得意な生徒をリーダーにおいて練習過程では教え合い、試合形式や演技の際は、男女を分けて、各自の運動における満足感が得られるよう工夫する。		
外国語	知識を習得することには積極的だが、それを活用して、英語で自らの考えを発表することに苦手意識がある生徒が多い。	生徒が主体的に発言・意見交換したくなるような場面や課題を設定し、ペアワークやグループワークでの発表練習を増やし、英語での発言に慣れることができるようにする。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立浅間中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	自身の考えを具体化、言語化することに課題がある。特に、表現するといった面を不得手としている生徒が多い。	年間の見通しがもてるように機会を作る。現在は俳句を春夏秋冬それぞれで提出し、発表している。年間で思いを表現することと向き合い、力をつけていく。		
数学	①基礎・基本となる知識の定着に差がある。 ②学習したことを活用したり、自分の考えを論理的に説明したり、数学的に表現したりする場面においては、まだ課題がある。	①授業中に基礎・基本の確認を行う時間を、習熟度に合わせて設ける。また、休み時間や放課後等に、個別に支援できる機会をつくり、不足部分を補う。 ②「どの考えを利用して解決することができるか」という課題の解決方法を学習できるような、探究活動を盛り込んだ授業を習熟度に合わせて展開する。		
理科	①学習課題を明確化し、見直しをもって実験や観察などに取り組むことが難しい。 ②事象・現象を科学的に探究するための協働的な活動の場数が少ない。	①ワークシートを活用し、生徒が学習を計画する機会を設ける。学習内容に応じて時間や流れを提示する。 ②単元ごとに探究活動の場面を設定する。既習事項・日常生活との結び付けや他者との意見交換を通して、学びの深化を図る。		
社会	知識習得の活動のために教員が説明にあてる時間が長くなる。	学習内容・活動の全体像を明確に指示した上で、複数の学習スタイルから生徒自身が選択した学びの姿をイメージできるように働きかける。		
音楽	①楽譜に書かれている内容の意味や理由を考え、表現の工夫につなげる力 ②楽譜に書かれていないが、演奏上、必要な表現の工夫を考える力	①楽譜を使う題材の中で、理由を考え、表現につなげる指導を必ず行い継続していく。 ②音楽を多角的な視点からとらえて、表現を工夫する方法を具体的に指導していく。		
美術	①見直しをもって学習を計画することに課題があり、制作の進度が遅い。材料や用具を効果的に使う判断力や、毎時間の学習目標に沿って制作を進める技能が必要である。	①毎時間、進捗状況の目標を示し、制作のスピードや効率化を意識させる。既習事項を活用し、材料や用具の効果的な生かし方について、構想スケッチを複数作成し、イメージが固まってから制作できるようにする。		
技術	①知識・技能を習得する場面では協働的な学習を行うことが少ない。 ②プログラミングを行う場面では、タブレットの活用や小学校で取り組んだ経験によって進捗に差が出てしまう。	①知識・技能を一斉学習した後、アウトプットする場面を設定し、協働的な学習を行う。 ②発展的な内容や、より便利なものになるような工夫を行うなど最終的な完成をより良いものにするよう指導する。		
家庭	①成人年齢の変更による社会的な立場の変更の理解が乏しい。 ②学ぶ内容と子どもたちの現段階の生活に差がある。特に家計の収支などに関しては、目に見えないため、実感をもちにくい。	①成人年齢が18歳になったことをうけて、成人としての責任をもてるよう、具体例を取り上げて理解を図る。 ②積極的にICTを活用し、学ぶ内容を可視化できるようにする。		
保健体育	技能のポイントやアドバイスを言語化して他者に伝えることが難しい。	振り返りシートやまとめシートを活用し、自分自身が学んだことを言葉で振り返ることができる場面を多く設定する。また、良い意見や考え方を全体に共有し、活動の中でアドバイスとして活用できるようにしていく。		
外国語	知識の習得に関しては意欲的に取り組んでいる。個人差はあるが、英語で自らの考えや意見を述べることはおおむねできてはいる。グループ内の話し合いや意見交換は活発に行うが、全体の場での発表となると自信がないからか消極的になる。	単元テストや復習の時間を設定することで生徒の個人差を埋めていく。発表することに関しては発表しやすい雰囲気をつくり、グループやペアでの発表や意見交換等を行い、全体発表の流れで行う。また、ストーリーテリングや会話練習等を通して、自身の意見や考えを述べる時間を設ける。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。